

<第4296回>

目的地：磐梯山・安達太良山（会津）

担当者：時本

実施日：2022年10月6日（木）～10日（月）

形式：民宿泊及びベーステント泊山行

費用：¥49,000.

（内訳）

近鉄高速バス 大阪⇄郡山（往復）	22,400 円		
レンタカー(3日分・保険料込)	5,809 円	(20,330 円×2台/7人)	
高速道路通行料 郡山IC～二本松 IC(片道)	194 円	(680 円×2台/7人)	
ガソリン代	876 円	(6,133円/7人)	
民宿（リゾートインみちのく）	8,250 円	テント設営費	2,600 円
安達太良ロープウェイ	1,050 円		
10/8 裏磐梯温泉センター	600 円	10/9 岳温泉入浴施設	400 円
10/7及び10/9 朝・昼食、10/10 朝食、10/8 昼食	10/8 夕食	4,600 円	
10/9 夕食	2,000 円	その他（ガス代等を含む）	221 円

参加者：7名

天気：10/7 曇り後終日雨、10/8 曇り、10/9 曇り

行程：

10/6 大阪・あべの橋(20:10)⇒なんばOCAT(20:30)⇒東梅田(20:50)⇒京都（八条口）(21:53)＝

10/7 天気：曇り後終日雨、

[近鉄バス]⇒(7:05)郡山駅前/[朝食]/レンタカー営業所(8:15)＝[レンタカー]⇒浄土平[約1,580m](10:15頃)＝[レンタカー]⇒(11:35頃)野口英世記念館(12:30頃)＝[レンタカー]⇒喜多方ラーメン店[昼食]、道の駅＝[レンタカー・猪苗代湖一周]⇒(16:15頃)⇒リゾートインみちのく[泊]

10/8 天気：曇り一時雨

[起床6:30]リゾートインみちのく(7:45)＝[レンタカー]⇒(8:14)裏磐梯スキー場（登山口）[約900m](8:25)→(11:25)弘法清水小屋・岡部小屋[約1,630m](11:40)→(12:05)磐梯山頂上[1,816.2m・昼食](12:50)→(13:18)弘法清水小屋・岡部小屋(13:24)→(14:43)裏磐梯スキー場分岐→(16:00)裏磐梯スキー場（登山口）(16:08)＝[レンタカー]⇒(16:35)裏磐梯国民休暇村キャンプ場[テント泊]

10/9 天気：曇り

[起床5:45]裏磐梯国民休暇村キャンプ場(7:48)＝[レンタカー]⇒(9:30)ロープウェイ山麓駅[約950m]＝[ロープウェイ]⇒ロープウェイ山頂駅[約1,340m](9:30)→(11:10)安達太良山山頂標識[約1,675m](11:15)→(11:25)乳首[1,699.7m](11:35)→(11:50頃)安達太良山山頂標識(12:04)→(13:12)くろがね小屋(13:30)→(14:50)ロープウェイ山麓駅(15:15)＝[レンタカー・途中、岳温泉にて入浴]⇒(18:30)郡山駅前[夕食](21:00)＝[近鉄バス]

10/10 ⇒6:05京都（八条口）⇒東梅田⇒なんばOCAT⇒8:00大阪・あべの橋

感想：

[10月7日（金）]

早朝、郡山駅に夜行バスで到着。その後マックでモーニングをいただき、前泊されていたADさん並びにYさんとレンタカー店舗で合流しました。以後2台の車に乗車して郡山駅前を出発。その頃は雨は降っていませんでしたが、1台の車中では当日の天気予報を見越してADさんを中心に、AKさん、Nさん、Sさんが相談され、当日の宿泊先の候補となる民宿を選定して仮予約をされ、他の1台のメンバーの賛同を得て、本予約に切替となりました。

1日目に登山予定だった東吾妻山の登山口の浄土平に到着したときは既にしっかりと雨が降ってお

り、皆さんの中で誰か一人でも登山をされるなら私も同行します、と確認したところどなたも登るとは言われず、車はそのまま登山口を歩き過ぎて一路猪苗代湖に向かいました。急な予定変更でしたが雨天なので観光施設が良いということで、野口英世記念館を見学しました。館内では野口英世のアンドロイドの動きが生きている人間みたいと参加メンバーから驚かされていました。その後昼食に喜多方ラーメンを食べ、道の駅見学後、猪苗代湖を一周し、民宿「リゾートインみちのく」に向かいました。

雨は一度も止むことはなく降り続いており、参加された人は民宿を選択して良かったと言われていましたが、宿泊料金は8,250円（消費税込み）で、値段から想像していたよりも遥かに立派な料理で皆さん一様に驚かされていました。馬刺し、鮎を始め品数が豊富でどの料理も大変おいしかったです。また、ビール（中瓶）3本がサービスで付いてきました。それと、館内のお風呂以外に、一回り大きい貸し切り風呂もあります。「リゾートインみちのく」はこの辺りに宿泊するなら強くお勧めできる宿です。夕食時、食堂に設置されたテレビから流れる明日の天気予報で、翌日は曇りのち晴れと知り、皆さんと磐梯山頂から猪苗代湖が見たいと言っていました。

[10月8日（土）]

翌朝は、民宿の通常の朝食時刻が7:30からであったところを7:00開始に繰り上げていただき、裏磐梯スキー場登山口まで車で向かいました。国道456号を左折して入る登山口までの道の大半は未舗装道路で、大きな窪みが結構あり慎重な運転が必要です。登山口からしばらく裏磐梯の湖を見ながらスキー場を通り、その後樹林帯にはいつても緩斜面が続きます。前日の雨のためぬかるみが随所であり、靴は泥だらけになりました。ただ、テント場に着いたあとと見比べるとスパッツは有効で、ズボンの裾は汚れていませんでした。

樹林帯を登っていくと、ところどころ樹林帯が途切れ、桧原湖や小野川湖、秋元湖といった裏磐梯の湖を俯瞰できるビューポイントが表れました。いつ周辺をガスが覆うかわからないという気持ちがあっただけに、雲がかかっているとはいえ麓を俯瞰できる貴重なスポットとしてその時々景色を楽しみました。

その後も登っていくと、八方台登山口からの登山道と合流する裏磐梯スキー場分岐を經由し、弘法清水小屋に到着しました。ここは猪苗代湖方面（表磐梯）から登ってくる登山道も集まる結節点となっており、約9年前の2013年8月に磐梯山に登られたADさんが、湧き水を見て「以前に登った時は暑かったので、ここで水を飲んだな」と感慨深く言われ、同じ例会に参加されていたSさんとともに当時を懐かしんでおられました。弘法清水小屋ではガス越しの日差しが強くなり北西方面に青空が見えたため、今後の天気の回復に期待をしていました。弘法清水小屋からは傾斜が急になります。今までより高さが大きくなった一段ずつを登り、磐梯山頂上手前で樹林が途切れ視界が開けたガレキの道を登りました。この頃はガスが強まり、磐梯山頂からの眺望は望めないのではないかと思います。

ついに磐梯山頂上に立ち、目的達成と皆さんと喜び合いました。雨天で登山をしなかった昨日と異なり、まずは一つでも登れたことは良かったと感じました。しかし、周囲は相変わらずガスの中。眺望は開けません。しかし、しばらくすると私たちの願いが通じたのかガスが薄くなり、雲の切れ間から猪苗代湖が数回、姿を現してくれました。全体が一度に見えることのない隙間から見えるといった状態でしたが、それでも猪苗代湖が見えるたびに私達も含め周囲からも、感嘆の声が挙がっていました。この時の気持は

「天津風（あまつかぜ） 雲の通ひ路（かよひじ） 吹き閉ぢよ 猪苗代の姿 しばしとどめむ」
（小倉百人一首中の僧正遍照作の和歌のパロディ）といったものでした。

ときおり現れる猪苗代湖を見た後、磐梯山頂上での集合写真を撮りました。順光なため、ガスがかかっても発色の良い写真がとれたものと後で振り返って思います。

頂上を降りて風が弱まった場所に腰を下ろせる場所を見つけ、昼食を摂りました。昼食を摂っている間にガスが薄くならないかと期待を持っていたのですが、先ほどより濃くなったようで、多分私達は良いタイミングで猪苗代湖を見れたのではないかと思います。昼食後、食べた場所のすぐ横に設置

してある標高も付記されている「磐梯山頂」と書かれた標柱が、頂上であることを示していて分かりやすいとの声があったため、皆さんで標柱を取り囲んで撮影しました。弘法清水小屋～裏磐梯スキー場分岐間には、弘法清水小屋を輪の一部とする、登山道がループしている区間があります。登りは短い弧を通りましたが、下りはお花畑がある長い弧を通りました。10月の東北、それも1,500mを超す標高ですから花は殆どありませんでしたが、平原が広がっており、開放感あふれる場所でした。

荷物は軽かったものの、登りはそれなりにしんどかったのですが、下りは速く進みました。それでも傾斜が緩くなってからも距離があり、しんどくはなかったのですが「長いな」と感じました。Tさんが調べられた情報では当日は15:00頃から晴れる予報でしたが、途中でわりとしっかりと雨に降られたことには驚きました。雨は45分くらい続いたでしょうか。次第に小粒となり、やんでいきました。やがて樹林帯を抜けスキー場に到着しました。登り始めに振り返って見た光景です。今までとは違う低い角度から見る桧原湖を背景に、磐梯山の名残を惜しみながら写真を撮りました。

テントサイト着は16:30を過ぎていて、日が短くなっている時期なので大急ぎでテントを設営しました。風がない状態でしたので、ペグはしっかりと打ち込む必要がなかったのですが、それでも皆さん、ペグを使うならしっかりと打ち込みたいと思っておられて石を探されましたが、相当手入れされているテント場なので石が殆どない状態でした。そこにTさんがテント用のトンカチを持参されていて、皆さんから人気で次々と貸してくださいとの要望が出されていました。テント設営後、近くの日帰り温泉施設で汗を流してコンビニに寄り、出発前に準備した食材に追加する食材（殆どの方はお弁当を購入）を仕入れてテントサイトに戻り、車座になって夕食としました。近くに文明の施設が豊富にあるテント生活は山の中のテント生活とは随分異なります。多分殆どオートキャンプのようなものだったと思います。傾斜がほぼなく、草地でクッションがあるうえ敷地に余裕があり、他グループとの距離も相当あったため極めて快適なテントサイトでした。また、翌日の天気予報を確認すると晴れで、星もくっきりと見え、明日こそ眺望に恵まれると喜んでいました。

食後は簡単な懇親会に移行しました。翌日も登山が控えていたため、酒量を抑え気味にし、20:55頃（だったと思います）にお開きとしました。標高800mということで、肌寒かったのですが、楽しい話題に盛り上がりました。1日目と2日目は皆さん同じ車の同じ位置に乗っておられましたが、懇親会でアミダくじにより翌日乗る車についてメンバー全員をランダムに割り当てることにし（総入れ替えと言った方が分かりやすいかも）、そのことも話題の一つとなりました。

[10月9日(日)]

翌朝は、既に前日夜にロープウェイに乗ることを決めていたため、ロープウェイの運転開始に合わせてゆっくり目のスタートとなりました。テントサイトを出発した頃は眺望を望める程度には晴れるかなと思われたのですが、長いトンネル（土湯トンネルと思われます）を越えたとたんにとんでもない曇天となり、眺望を諦めるどころか雨が降る可能性もあると思われました。天気予報はまたしても外れたようです。当日の前半、岳温泉までは私が1台のレンタカーを運転しました。前日に自分はマイカーを持っておらず、運転はTさんやADさんの方が上手であると告げていましたので、ロープウェイ山麓駅付近の駐車場でバックで左右が狭い車間に入れようとしていると、頼りない運転を見越してか、先行していた1台目のレンタカーに乗車されていたAKさんが、下車後近くまで来て誘導されましたので、心遣いがありがたかったです。あたりは相変わらず重い雲が下の方まで広がっていましたが、それでも気を取り直して、奥岳登山口からロープウェイに乗車し、ロープウェイ山頂駅から登山を開始しました。辺りは昨日以上の濃霧。それにしても人の多いこと。ほぼ数珠つなぎの状態に登っていきました。「首都圏が近いと人が多いね。」なんて言いながら進んでいたのですが、表登山道・仙女平分岐を過ぎて暫く行った辺りで、行列が動かなくなりました。登山道には泥状の水溜りがあり、頻繁にやってくる下山途中の人が飛ばす泥水をかけられないか、止まった場所によっては心配になりました。完全に止まったり、ゆっくり進んだりを繰り返しながら、やがて渋滞は解消しました。渋滞の理由は、急な登りが出現してしばらく続いたことと、登山道が狭いため、登り・下りの行き違いのための待合が頻繁に発生したことだったと思います。ガスはいよいよ濃くなって、この頃になると眺望が望めるようになることは諦め、雨に降られないことだけを願っていました。

やがて安達太良山頂上（山頂の標柱があるところ）に到着し、その後簡単な鎖とハシゴのある”乳首”に登頂しましたが、ここでも登りに少し渋滞があったのと、下りはひどい渋滞でした。ただ、後で考えると下りで何故あんなにひどい渋滞が発生したかわからない程度のルートでした。”乳首”では順番待ちの列が続いていたため集合写真は撮影せず、個人写真だけ撮影しました。

下山する頃には更にガスがひどくなり、ほんのわずかですが霧雨も降ってきました。「安達太良山にも空がない。」同行の誰かが言っていました、もちろん智恵子抄のパロディです。でも本当にそのとおりでした。前日のミーティングで、入浴時間やレンタカー返却時刻を考えて、当日の下山のタイムリミットを16:00としており、午前中に渋滞に巻き込まれたことで、既に予定していた鉄山に行かないことに決めていました。そこで、安達太良山出発後はくろがね温泉に向かって下山しました。約1時間歩いていると温泉成分の硫黄の匂いがしだし、くろがね小屋に近づいてきたことが分かりましたが、そこから小屋迄が長く、硫黄の強い温泉だなと思いました。午前中と異なり、下山時は渋滞がなく順調に進んできて、くろがね小屋に到着する頃には16:00には下山できる見通しが立っていました。

くろがね温泉から先は、道幅が広い緩やかな道でした。Tさんは、くろがね小屋に物資を運ぶ道で車も通る道と言われましたが、それを裏付けるように、途中で車が止まっているのを見かけました。話しながら下っていくと、ポイントとなる通過地点を意識しないうちに朝、ロープウェイに乗った奥岳登山口に到着しました。今日の朝のことですが、なんとなく懐かしい場所のように思えてきました。靴を洗う設備が離れた場所に2カ所に設置されていて、私たちも靴の泥を落としてレンタカーに乗り込みました。

途中、Yさんが希望されていた岳温泉に入浴しました。Yさんは昨年、安達太良山に登られていてその際に岳温泉が良い温泉という話を聞かれていましたが結局入浴されていなかったため、心残りだったそうです。Yさんには、岳温泉の日帰り入浴施設を探しているときに、何度か車から降りて空いているか確認していただいたり、もう一台の車に情報提供していただくために車を降りて小走りで連絡していただいたりお手数をおかけしました。時間が遡って現地1日目で、3日目の天気が良いと考えていた頃のこと。Yさんには昨年行かれた安達太良山で感動された景色の場所に案内すると仰っていただきましたが、あいにくの天気で叶いませんでした。ADさん、Sさん、Yさんには既に天気の良い時期に登頂された山を含む今回の例会に参加していただきましたこと、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。また、長距離、長時間運転していただきました、Tさん、ADさん、ありがとうございました。Sさんには全体をとりまとめ、ムードメーカーとしてご活躍いただきましてありがとうございました。

郡山駅近くでレンタカーを返すころには辺りはすっかり暗くなっていました。郡山駅構内ではADさんが選定された中華料理店で打ち上げをしました。この中華料理店では荷物スペースがゆったりととれるだけの広い個室を割り当てられ、良い店舗を選定していただいたものと思います。

今回の例会は、雨のため1日目は山に登れず、予定していたテント泊を民宿泊に切替することとなり、2日目、3日目も眺望がきかない山行となり、参加していただいた方には申し訳なかったという思いを持っています。一方で、皆さんとの楽しい語り、コストパフォーマンスに優れた民宿の豪華な料理、久々のテント泊等、良い思い出も多くなりましたことは、同行いただきました皆さんのお陰と感謝しております。お陰様で、決して良いと言えない天候であったにもかかわらず、私としましては楽しい例会でした。このことは多分、皆さん全員が気を使わずに過ごせるメンバーだったことも非常に大きな要素ではないかと思っております。ありがとうございました。